石巻専修大学
「石巻専修大学」ホームページ https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

学生ら200人 地域盛り上げる
第100回 石巻川開き祭り

そろいの浴衣で通りを練り歩いた大漁踊り

石巻市の夏の風物詩「石巻川開き祭り」が、8月4日から6日まで開かれた。第100回開催となった今年は記念イベントなども行われ、大勢の人でにぎわった。本学からは学生や教職員延べ200人が参加し、久しぶりの行動制限のない夏を楽しんだ。

本学チームとして3連覇を目指した縄張神社奉納大縄引き大会や、12人1組で臨む孫兵衛船競漕では優勝を逃したものの、全力で祭りを盛り上げた学生たちは充実の表情を見せていた。

祭りのフィナーレを飾る大漁踊りでは、そろいの浴衣を着た学生たちが、メイン通りを練り歩いた。若々しく楽しそうに舞う学生たちに、沿道から多くの声援が送られた。猪狩京太さん（理工1・宮城県仙台二華高）は「地域の方たちが笑顔で見守ってくれて、うれしかった」、小林菜々美さん（理工1・秋田県聖霊女子短期大付属高）も「楽しかった。来年も参加したい」と話した。

会場に展示された46基の吹き流しの内の1基を、人間学部人間教育学科で新鶴田道也助教の授業を履修する学生らが制作した。その他にも多くの学生や教職員が祭りの準備やボランティア活動に汗を流した。4日は、震災犠牲者を追悼するために北上川に浮かべる流燈づくりに励み、他団体と合わせて4000個を作成。6日早朝は、前日に打ち上げられた花火のくずなどを拾って歩き、地域の方とも交流を深めた。

石鳳祭実行委員会のメンバーと流燈づくりに協力した鎌田葵さん（理工2・岩手県盛岡第二高）は、「一つ一つ思いを込めて流燈を作った。初めて川開き祭りに参加したが、石巻市全体で盛り上がっていたのが印象的だった」と振り返った。

大きな声援を受けた大縄引き大会

一つ一つ丁寧に流燈をつくる学生たち

北上川沿いのゴミを拾うボランティアの学生

石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717（直）

最新の情報は大学HPで。

楽天球場でフィールドワーク
杉田ゼミ こめぼこ販売　稲葉ゼミ アンケート調査

元気よく「こめぼこ」を販売する杉田ゼミ生

経営学部経営学科の杉田博ゼミと稲葉健太郎ゼミの学生20人が8月27日、プロ野球東北楽天ゴールデンイーグルスの本拠地「楽天モバイルパーク宮城」でフィールドワークを行った。

同球団が開催する地域活性イベント「東北ろっけんまつり」に出店したのは、2017年度から宮城県水産高校、石巻北高校と連携して、米粉入りかまぼこ「こめぼこ」の地域ブランド化に取り組む杉田ゼミ。当日は、石巻北高校の生徒とともに商品の魅力をアピールし、用意した130パック全てを売り切った。岡村健瑠さん（経営3・宮城県大河原商業高）は、「大学生と高校生が共同開発した商品であることを直接伝えることができて有意義だった」と話した。

稲葉ゼミは、来場者を対象に「プロ野球観戦と余暇活動に関するアンケート」調査を行い、100人以上から回答を集めた。ゼミでは今後、調査結果を分析し、楽天野球団に報告する。

初めてアンケート調査に取り組んだ折立唯花さん（経営3・宮城県石巻商業高）は、「緊張したが、快く答えてくれる方がいるとうれしく、励みになった。貴重な経験になった」と語った。

調査を行う稲葉ゼミ生

大型クルーズ船寄港イベント
人間学部生&留学生が協力

7月30日に石巻港雲雀野中央埠頭で開催された、大型クルーズ船「パシフィックワールド号」寄港歓迎イベントに、人間学部人間文化学科の3年次生4人と本学外国人留学生8人がボランティアとして参加した。石巻観光を楽しむクルーズ船の乗客に対し、日本語や英語、中国語でコミュニケーションを取り、道案内や買い物のサポートなどを行った。

西條結香さん（宮城県登米高）、阿部志保子さん（宮城県古川学園高）、小川結実さん（同）、木村千尋さん（宮城県桜坂高）の4人は国際交流への関心が高く、これまでもさまざまな活動に取り組んできた。西條さんは「いろいろな国の人と関わる貴重な機会となった」、阿部さんも「地域の名産を説明するために、私自身も石巻について多くのことを学ぶことができた」と感想を述べた。

中国・東北電力大学からの交換留学生で、当日は通訳として活躍した張玥さんは「台湾から来た家族がタクシーに乗る手伝いができてうれしかった」と笑顔で話した。

外国人観光客の誘導にあたる梁翰宸さん（理工4）

23年度科研費 2件が新規採択

2023年度の科学研究費助成事業（科研費）に、石巻専修大学から2件が新規採択された。研究種目、氏名、研究課題名は次の通り。

研究種目	氏名	所属・職名	研究課題名
基盤研究（C）	丸岡　泰	経営学部経営学科教授	大災害時の災害対応組織の協働形態の非営利セクター形成度をふまえた日米比較研究
	庄子 真岐	経営学部経営学科教授	災害伝承施設の評価とその施設が観光まちづくりに果たす役割

「食の新分野」をテーマに水産加工研と合同研究会

水産加工関係事業者の発展を目指して活動する石巻地区水産加工研究会と、地域社会の諸課題解決に取り組む本学による合同研究会が7月27日に開かれた。

産学官連携のきっかけづくりが主な目的で、今回は「食の新分野」をテーマに開催。尾池守学長による講演のほか、宇宙食、非常食、嚥下食、フードファストフード化など多岐にわたる内容について、グループワークや意見交換が行われた。尾池研究室の学生も参加し、企業の方と積極的に意見を交わしていた。

ロケットの熱量の流動について研究している佐藤瑛展さん（理工4・山形県酒田東高）は、「普段の研究とは異なるテーマだったが、企業がどのような視点で物事を見ているのかが分かり、参考になった。機会があればまた参加したい」と話した。

ロケットについて講演した尾池学長

2023石鳳祭
メーンテーマ 新時代
10/7㊏・8㊐

メーンステージでは両日ともバンドライブを開催。7日にはスペシャルゲスト「EMPATHY」も登場する。
ゼミナールによる模擬店や地場産品フェアなども。

さまざまな生物が飼育されているウェットラボ。左下はオープンキャンパスで見学する高校生

「海洋生物ラボ」完成

1号館に二つの海洋生物ラボが完成し、理工学部生物科学科の各研究室で活用されている。

「海洋生物ウェットラボ」は、主に宮城県の沿岸域で採集した海洋生物の飼育などに用いる実験室で、教員や学生の水槽実験に使用。「海洋生物ドライラボ」は、顕微鏡エリアと藻類培養エリアからなり、生物観察や試料分析を行う。これまで各研究室に分散されていた実験機能をラボに集約することで、安定した環境での飼育実験や共同研究が可能となった。

生息地が違う生物を飼育し観察する海洋ベントス水槽